

実習教育に関する情報の統合に関する研究

野方 円^{*・1)}, 志村 健一¹⁾

¹⁾ 聖隷クリストファー大学

目的 本研究の目的は、学生支援、および実習業務の効率化のためのシステム・インテグレーションの設計である。今回はデータベース構築の課題点の整理を行う。実習教育において、学生が実習前に作成する履歴書、実習計画書、実習中に作成する実習日誌、実習後に作成する実習総括書がある。それらのデータベースを構築し、一括管理をすることを目指す。それにより、学生は自己の実習の過程、および自己の成長を一覧で確認することができる。いわゆるデジタルポートフォリオを構築する。また、実習指導教員は、学生が作成した記録物を参照しやすくなり、学生個々の学習過程を一覧で確認できることで、より細やかな指導が行いやすくなる。現在、実習に伴う業務はデータベース化が不完全で情報が一元化されておらず、煩雑である。本研究により情報をデータベース化し、一元化することで円滑な業務運用が可能になる。

方法 現在、デジタルポートフォリオ、もしくはデータベースを活用している実践者から話を伺う。具体的には、デジタルポートフォリオについて、栗山隆北星学園大学教授に話を伺い、データベースについて、高橋信行鹿児島国際大学教授から話を伺った。また、筆者が行っている実習教育業務での課題の整理についても行い、それらについて考察する。

結果・考察 デジタルポートフォリオの長所のひとつは、文書等の文字情報のみならず、音声、画像、映像等、いわゆるマルチメディアが活用できる点である。これにより、言葉では伝わりにくい顔の表情、声のトーン等も記録することができる点は非常に大きな意味を持つ。また、モチベーションが高い学生にとって自身が学んだ内容が確認でき、実習等においては自身の体験を振り返ることにより、新たな気づきが得られる場合もある。短所としては、セキュリティの難しさである。デジタル化された情報処理の利点でもあり、欠点でもあるが複製が簡単にできてしまうことである。デジタルポートフォリオを扱う教員を含む利用者がセキュリティを意識して運用することが最も重要であると指摘された。また、ポートフォリオを作成させることは意欲の高い学生にとっては有意義だが、モチベーションが高くない学生にとっては、“やらされる”作業が増えるだけというネガティブなイメージがついてしまう可能性がある。

社会福祉教育に関する問題点についても3点指摘頂いた。1点目は、現在の大学における社会福祉教育は、社会福祉士国家試験に合格することが到達目標になっている場合が多く、合格率が3割前後であることを考えると7割前後の学生が目標に到達していないことになる点である。大学での教育は、社会福祉士国家試験のみではなく、NPO等の起業家、および研究家を育てるような仕組みを作り必要があるとの指摘をいただいた。2点目は、実習前にボランティアを経験できるよう、大学内にボランティアサポートセンターを設置するというものである。以前の学生であれば、実習前にボランティア等を経験しており、実習施設に馴染むために時間をさほど要さなかったが、現在の学生は、馴染むなでに時間がかかり、本来実習で体験してほしいレベルまで到達しないことが起こってきているとのことだった。3点目は、直接、社会福祉教育に関係しないかもしれないが、社会福祉に携わる方のキャリアパスが見えない点を挙げられた。端的な表現をすれば、努力をしたとき、その分賃金に反映されるような仕組みが必要であると指摘された。

発表状況 野方円(2011)“実習教育に関する情報の統合に関する研究”, 聖隷クリストファー大学社会福祉学部紀要第9号, 65-72, 学校法人聖隷学園 聖隷クリストファー大学。